



新春のお慶び

申しあげます

本年も旧年に

変わらず、

宜しくお願  
いたします

# さんわ便り

第157号  
発行所  
さんわグループ  
編集広報部  
大分市森町

## 宗教の幼稚園から大学へ

大分、古いことであるが、NHKのラジオの朝の訪問というところで、アナンサーが来られて『新興宗教をどう思うか』と尋ねられたことがある。わたしはその時、お答えしたことがある。

わたしは新興宗教を、良いとも悪いとも申さない。しかし宗教にも幼稚園から大学までと思うが、いかがであろう。幼稚園の子供達は、親や先生に甘えることしか知らない。与えられることしか考えない。宗教も、神さまや仏さまに、あれが欲しい、こうして欲しい、と甘えて、何かを与えられることしか知らない宗教があつたら、それは、宗教の幼稚園だと思ふ。

## 地獄村と極楽村

妙念寺電話サービスお電話ありがとうございます。

こんな文章を見つけました。地獄村と極楽村という文章です。地獄村という村が、どこかにあるそうです。この地獄村の住民たちは、自分たちこそ現代の先端を歩いているという誇りをもっているから、自分たちの住んでいるところを、地獄村などと耳にしたら、カンカンになって怒り、理屈攻めに論議をふきかけるに決まっています。この地獄村の人たちは、自分ほど偉いものはいないというふうにい、大変いばって歩いていきます。その目つきが、すごく鋭いので、何か人の欠点やあら捜しをしているようで、別に悪いことをしていないのに、何か疑るように冷たいものを感じます。非常に我が強いので、争いごとが絶えません。小さなことから大きな争いにな

ることが多いのですが、素直に謝るといふ心がありません。ちよつとバスの中で他人の足を踏んでも、素直にあやまらないで、人の通るところに足を出している者が悪いと主張し、じきに口げんかになります。名譽や出世ということには、きわめて執着が強く、この世に生まれてきたからには、立身出世をしない者は、どうかしているという意識が強いのです。さらに、これが延長されて、目的のために手段を選ばず、入学試験や議員に立候補する場合など、すぐにお金からんでくるのです。そうです。お金に対する気持ちは、大変なものです。争いになれば裁判、裁判には金です。交通事故でも、金さえ高額に保険を掛けておけば安心だという考え方で、他人の命には尊厳性を認めていないと思われませんか。いわんや人間以外の鳥や獣に対してはなおさらです。お金に関してもつといえ

ば、楽しんでもうけねば損だ、まともに働くものはどうかしているという考え方が強くて、人の健康をそこねてしまふ麻薬を売ったり、青少年に有害な出版物が街にはんらんしており、それに刺激されて、非行に走る生徒たちもたくさんいます。

## チョットいい話

久しぶりに、友人宅で開かれる女子会に参加しました。招待してくれた友達は、ピアノの先生です。防音効果が高されたお部屋には、ピアノの設置されています。皆が席に着くとまず、初秋の「虫の声」を演奏してくれ、清々しい気持ちになりました。

世に生まれてきたからには、立身出世をしない者は、どうかしているという意識が強いのです。さらに、これが延長されて、目的のために手段を選ばず、入学試験や議員に立候補する場合など、すぐにお金からんでくるのです。そうです。お金に対する気持ちは、大変なものです。争いになれば裁判、裁判には金です。交通事故でも、金さえ高額に保険を掛けておけば安心だという考え方で、他人の命には尊厳性を認めていないと思われませんか。いわんや人間以外の鳥や獣に対してはなおさらです。お金に関してもつといえ

「ここにも宗教施設はありますが、ポックリ祈願・合格祈願・各種の安全祈願ばかりです。一方、極楽村は、地獄村と正反対です。極楽村では、「罪業深重」とか「おはずかしゅうございます」などという言葉が、自然と出てくるようで、寺の鐘を聞いても「ご恩・ご恩」と喜ぶ人が多いという事です。地獄村と極楽村、皆さんはどちらにお住まいですか。お電話ありがとうございます。本願寺新報リビング法話より  
昭和58年5月1日号  
土岐慶哉師

暫くすると、若い40歳の女性から自己紹介が始まりました。部屋にはいつの間にか「故郷」の音楽が流れています。曲の影響でしょうか、それぞれの故郷で過ごした懐かしい話に花が咲きました。

## 仏法に明日ということはない 今日尊さ 今日ありがたさ

ホムペー ジ 改 葬 - さんわ

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口)	TEL (0977) 72-6415
三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トライアル横)	TEL (0974) 22-3301
森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口)	TEL (097) 524-6525

が、半ばは親や先生を畏敬することを覚える。宗教も、神さまや仏さまに半ば甘えるが、半ばはその徳光を感じ、その靈能に畏敬の念を持つようになれば、宗教の小学校である。中学校になると、大分聞き分けが良くなって、親や先生のいうことをよく聞き、その命令に従うようになる。宗教も神さまや仏さまの教えを素直に聞いて、道徳的になるならば、宗教の中学校である。

に神、仏を発見させていくものが宗教の大学である。仏教はその大学だと思ふ。幼稚園がいかに繁盛しても、決してうらやましいとは思わない。一日も早く進学して、大学へ入って来るのを待つておるだけだと答えたことである。神々を祀って、朝に夕に自分の幸福だけを祈るのは、宗教の幼稚園ではあるまいか。

高等学校の生徒になると、頭脳が発達し非常に理屈っぽくなって、親や先生のいうことも、まともに聞かなくなる。宗教も、高等学校になると懐疑的になり、神はほんとにあるかなどと理屈をこねるようになって、そこで信じられればやまることが、信じられなければ、宗教を離れてしまう。

山田 無文老師  
明治33年〜昭和63年  
(1900年〜1988年)  
臨濟宗、京都五山、妙心寺派26代官長。花園大学学長  
禅界では明治以降では稀代の名僧だと言われているとお聞きしたことがあります。それは、大学の学長もされ、また一般人を対象としたご法話も数多くこなされ、ご著書も多いと言ふ事が、そう言う評価に結び付いているものと思ふますが、話術の素晴らしさも大いに寄与していると思ふます